

令和 3 年度第 2 回守口市まち・ひと・しごと創生委員会での主なご意見について

企業版ふるさと納税に関するご意見

・企業版のふるさと納税の活用策として、子育てというところをターゲットにしたということは、将来的にも人口増加につながるお話ではないかと思う。

ただ、企業版ふるさと納税という制度が、個人のふるさと納税と異なり、返礼品がないため、**企業にどこまでのインセンティブを与えることができるのかという点は気になる。**

・企業版ふるさと納税も最初はしっかりと営業活動をしなるとなかなかしんどい。**こんな施策をしていますと対象企業に単に紹介しても効果が上がりません。寄附をいただけるよう説得力があるような取組が必要。**

・商工業者にとって、メリットをしっかりと示すことが寄附をいただく上では、非常に重要である。

・内閣府のホームページを見ると、企業版ふるさと納税に係るプロジェクトのタイトルは、尖ったものが多い。まち・ひと・しごと創生委員会での意見や活動をうまくタイトルに反映しないと、目につかないのかなと思う。例えば、「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム・プロジェクト」、このタイトルは、まちがどんな形になっていくのか想像できます。実際には、**企業版ふるさと納税も競争です。尖ったタイトルをつけないといけないのかなと思う。**

市の考え方

⇒ 企業版ふるさと納税に関し、これから企業様からどのようにご寄附をいただけるように取り組んでいくのかについては、寄附をいただけるよう実効的な取組とするために、まずは、本部会議の構成員を通じ、庁内各部署での様々な意見や現時点における取組等も参考としつつ企画課でその内容を取りまとめ、翌年度の本部会議において、実効性ある取組に関し、議論していきたいと考えているところ。

コミュニティセンターの利用等に関するご意見

・コミュニティセンターは個人利用もできるが、市民からすると知らない方も非常に多いので、もっと情報を発信していったほうが良いのではないかと。

また、利用した人はこんな利用の仕方をしているよとか、楽しく使っているという情報があれば、利用したくなるのではないかと思います。

市の考え方

⇒ コミュニティセンターの運営については、効率・効果的になされるよう各施設を管理運営する指定管理者と定期的に打ち合わせを行い、民間事業者の柔軟なアイデアなどを参考に取り組んでいるところ。

指定管理者は、施設運営をする中において、「とにかく一回コミュニティセンターに足を運んでいただき、魅力を感じていただくことが大切である。」と考えており、それに係る取組として魅力あるイベント等の企画・実施に取り組んでいるところ。著名な方をお呼びするイベントなどについては、定員を超える参加もあるところ。今後も指定管理者と意見交換をしつつ情報発信を強化していく。また、それらに加えて、市としてコミュニティセンターの整備を進めており、耐震性能の向上も含め、きれいになった施設という点についても、快適性や安全性の向上も強みの一つとしてPRし、更なる利用を促していきたい。

守口市のまちのイメージに関するご意見

まちのイメージが良くないと思われる方が、減ってきているとのことであるが、それでも約2割もいる現状がある。私は良くないという思いが全くないので、個人的には不思議。市として何が要因としてあると考えているか。

市の考え方

⇒ まちの安全・安心に係る取組に関して、防犯カメラ1,000台の設置をご存じではない市民の方が多くおられるということについて、以前の創生委員会においてご指摘があったこともある。それを踏まえ、担当部署においても情報発信されているが、その継続とともに、防犯カメラがたくさんあるということを市民の皆さんが知ることにしても安全・安心なまちづくりにつながることも考えられる。令和4年度以降は、防犯カメラを更に100台増やす計画もある。引き続きの情報発信が大切。

ことりっぷ「守口めぐり」及び守口市魅力PRチラシに関するご意見

・「ことりっぷ」は市民の方にも、魅力を知ってもらう機会につながるので、例えば郵便局に置かせていただくなどの取組は、いかがか。

・すばらしい取組だと思う。ぜひ進めていただきたい。一方で、どういった方にこれを届けたいのかというところを引き続き研究してほしい。観光局とか駅とか置いているだけになってしまわないように。

手に取られた方からの意見を例えばSNSとかを活用しながら、吸収し、次の一手に生かしていくことが大切。長い活動にしていだけたらなと思う。

・ことりっぷシリーズは、紙雑誌の中で、特に女性の中ではおしゃれな雑誌というイメージがある。小物が好きな人とか、そういう人も好きな雑誌なので、ぜひとも市内に置いていただきたい。

市の考え方

⇒ これらの魅力発信冊子をどこに配架するかということはとても重要である。市内に設置し、守口市の魅力を再発見していただくことも重要であるが、それにも増して市外の方に守口市の魅力を知っていただくことも大切。現時点での取組については、大阪府の職員の方に助言を得ながら、大阪府内の観光地に設置することを考えており、それに加え、庁内各部署において、効果的な設置場所の提案があるのであれば、それを含めて取り組んでまいりたい。

守口市駅北側エリアリノベーション社会実験「守口さんぽ」に関するご意見

・これらの社会実験については、ことりっぷ「守口めぐり」及び守口市魅力PRチラシの作成に協力いただいた関西大学や、市と各種事業で連携させていただいている大阪国際大学についても、もう少し一緒になって、取り組んでいただければと思う。

・守口市駅周辺が、守口市の「玄関口」であるということは分かるが、例えば東部地域においても核となる大日駅がある。そちらについても今後、このような取組があれば良いのではないかと思う。

市の考え方

⇒ エリアリノベーション社会実験については、令和4年度以降も2回以上の実施を予定しているところ。本社会実験については、将来の道路の活用などの可能性を見極めるために実施しており、東部地域の大日駅については、都市計画法に定める地区計画がすでに完成しており、社会実験を行ったうえでの結果を踏まえた新たな取組を設定する必要がない状況にある。しかし、指摘を踏まえ、まちの活性化につながるような「駅前プロジェクト」のような取組については、検討の余地があるのではないかと考えているところ。